



# 同援だより

2021年

盛夏号 (188号)

## ● 主な内容 ●

令和3年度事業計画  
施設通信

令和2年度事業報告・決算報告



## 着実に一歩ずつ

理事長 飯山 幸雄

今年の6月は1日から例年になく暑いと感じましたので、昨年と10年前の天候を調べてみました。すると、昨年は、1日は21.2度だったものの2日は26.6度の夏日で12日まで連続の夏日、うち真夏日は9日から連続4日でした。暑いと思った今年は1日から25.7度の夏日でしたが、4日と6日は25度を下回り真夏日も8日から10日までの3日間で、昨年の方が暑かったと言えます。こうしてみると、月の初日の暑さがその後の感じ方に影響していたのではないかと思います。人間の感覚（私だけかも知れませんが）というものは一度感じたことに左右されやすいのかなど改めて考えさせられました。仕事でも同じようなことになっていないか（最初の思い込みで進めていないか）、よく考える必要があります。

因みに、10年前の2011年の同じ期間の天候を見てみると、夏日は6日、真夏日はありませんでした。やはり温暖化が顕著なのではないでしょうか。

春から初夏、そして梅雨入り、梅雨明け後の真夏といった季節の変わり目に本稿を書いています。すでに1年半に及ぶコロナ禍は、東京にとって3度目の緊急事態宣言は再延長後6月20日で解除となり、翌21日から7月11日までまん延防止等重点措置の適用となりましたが、新規陽性確認数は21日、22日、23日、24日と連日前の週の同じ曜日を上回っており、専門家は「感染の再拡大の予兆が見られる。」と警鐘を発しておられます(24日現在)。本稿が皆様の目に触れるころどのような状況になっているのかとても気になります。

このような状況の中、本会の各施設(昭島病院を含む)では、ご利用者(患者さんは除く)・職員に散発的に陽性者が発生しているものの、クラスターの発生は見ておりません。これは各施設それぞれが感染予防の基本的事項を守っているからであり、それは職員が自覚をもって長期間に亘る辛抱に耐えているからだと言えます。人の集まる施設における感染リスクは非常に高いと思いますので、日々の運営はリスク低減のため窮屈でメリハリの乏しいものとならざるを得ません。しかし、その中でも職員は施設を利用されている方々(大人も子どもも)の生活が豊かなものになるよう創意工夫を重ねております。ご利用者並びにご家族の皆様、どうぞ今ご利用中の施設をご信頼いただきたいと思います。また、昭島病院の患者さんご家族の皆様も安心して通院・入院いただきたいと思います。

新型コロナワクチンの医療関係者・高齢者への先行接種は相当進んでまいりました。近いうちに希望される方々への接種もスピードアップされると思います。しかし、ワクチンを打ったからといっても手放しで安全というわけではありません。感染リスクは残りますので、基本的な感染予防策を堅持して、終息まで頑張っていかなければなりません。その上で、本会は現行事業の内容充実と新規事業の実施を図り、都民の皆様と職員の幸せを実現していくべく努力を続けてまいります。

厚生労働省の令和3年度社会保障関係予算は、0.5%増の32兆7,928億円となり、対前年度比で1,609億円増額されました。全世代型社会保障改革が推進される中で、新型コロナウイルス感染症から国民の命・雇用・生活を守り、ウィズコロナ時代に対応した切れ目のない予算措置が講じられました。介護報酬改定の+0.7%、障害福祉サービス等報酬改定の+0.56%なども盛り込まれています。一方、都の税収は7.3%減の3,996億円の減収となりましたが、令和3年度の福祉・保健分野の歳出予算案は1.4%増の1兆2,975億円となり、対前年度比で174億円増額され歳出予算全体の23.1%を占めています。

### 中長期計画に添って 魅力ある未来をつくります

本会としては上記の情勢を踏まえ、中長期計画に添って魅力ある未来をつくるための「持続的成長」を目指した経営を行うとともに、地域に根差した事業の着実な継続や社会貢献活動に取り組んでまいります。事業実施にあたりましては、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めるとともに、ウィズコロナ時代に対応した「新たな日常」の下で利用者の安心・安全を確保しながら利用者の立場に立った質の高いサービスを提供いたします。また、安定した財務基盤の強化、サービスの担い手である人材の確保と育成を重点目標にいたします。

### 豊島区東部障害支援センターを 新たに受託します

まず、地域に根差した事業の着実な継続として、豊島区においては、現在受託中の西部障害支援センターに加えて東部障害支援センターも新たに受託し、障害者の多様な需要に対応した障害支援事業を区内全域において包括的に展開してまいります。また、老朽化したニューフジホームの移転改築計画の具体化を進めるとともに、3園合築施設（双葉園、昭和郷保育園、サンライズ万世）の大規模外壁補修をはじめ、単独施設における各種施設整備等を計画的に行うなど活動基盤の強化に努め、住み慣れた地域での生活を支えてまいります。

### 物品調達の一元化を推進します

次に、財務基盤の強化については、収益性の高い集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業の安定的な経営管理や低金利時代に対応した資産運用収入の確保、更には予算管理や事業効率の徹底を図り、職員の賃金、職場環境の向上を可能とします。また、業務委託等の固定費の見直しをはじめ、事務用品や日用品などの物品調達の一元化を推進して調達の手間を一掃するなど、費用と間接コストの両面から経費削減に努めてまいります。

### 魅力ある給与制度を構築します

### 選択制企業型確定拠出 年金制度を導入します

人材の確保と育成については、魅力ある給与制度設計や企業型確定拠出年金の導入など更なる処遇改善を進めるとともに、柔軟な働き方ができる環境づくりなど働き方改革の実現に努めます。コロナ禍においても本会の就活用イメージ動画や就活・転職市場におけるITツールを活用して積極的に新規学卒予定者等への求人活動を展開します。更に中途採用による幅広い戦力の確保を積極的に進めるとともに、特定技能実習生や介護福祉士養成校の外国人留学生の活用など外国人労働者の受入れ体制を強化し人材の確保に努めます。また、利用者満足度の高いサービスを提供するために、専門的技術の修得並びに利用者の人権擁護の徹底などについての職場内外のリモート研修の充実を図り、職員の質の向上、並びにキャリアアップの実現を目指してまいります。

### 地域に求められる医療に貢献します

昭島病院については、地域の医療機関、介護事業所及び行政機関等との連携を一層進め、地域の医療需要の変化への対応に積極的に取り組み、地域医療の中核的な役割を果たしてまいります。また、都内新型コロナウイルス感染症患者の受入や昭島市民のワクチン接種など地域に求められる医療に貢献するとともに、全力で収支改善に取り組んでまいります。

本年度も役職員一丸となり、利用者の皆様や地域の方々から信頼される法人であり続けるために精進してまいります。

# 就任挨拶



施設部長 岡本 勝巳

この度施設部長を拝命致しました。重責に身の引き締まる思いです。お引き受けしたからには歴代の施設部長が果たしてきた役割を全うしていく所存です。

社会福祉法人も環境の変化により益々役割が重要となっております。組織のガバナンスは勿論のこと、行政だけでは担えないような福祉課題に対応する地域共生社会の実現やICT（情報通信技術）の活用による生産性の向上等です。法人の将来を考えた時どれも疎かに出来ない重要事項だと思いますが、特にICT（情報通信技術）の活用による生産性の向上は、今後の職員獲得のためにも喫緊の課題ではないかと感じております。

また施設部関係では、新規施設の開設、移転改築、大規模修繕と課題は山積しており、どの事業も各グループとの連携が無ければ成しえません。

東京都同胞援護会は設立以来多角的視点による柔軟な法人運営に取り組んでおり、多様性のある法人です。これからも利用者・職員にとって居心地のよい環境（顧客満足・職員満足）づくりを進めていくために良き伝統を守りつつ新たな展開にも取り組んでいきたいと思っております。



ひかり苑 園長 河野 雄太

平成15年の入職より特別養護老人ホームでの介護職員、生活相談員、在宅のケアマネージャーをそれぞれ経験させていただき、縁あって4月よりこの緑豊かな東村山市

のひかり苑の園長を拝命いたしました。

昨今、明るいニュースは多くありませんが、職員一同力を合わせて利用者のもとよりご家族や関係する皆様にも少しでも多くの「ひかり」を届けて参ります。

ひかり苑では、高齢者人口の増加と介護の重度化へのさらなる支援体制としてICTの導入を推進していますが、「ひと」でなければ行えないサービスの形態が変わることはございません。「ひととひと」を中心に見据えたサービスを大切に、私たち専門職にしか行うことができないサービスに誇りを持ち、ご利用者の可能性や希望を諦めない介護や支援を目指します。

ひかり苑のモットーである「親切」「丁寧」「誠実」を欠かすことなく、利用者の皆様が楽しみを持って安心して過ごせるよう、職員が心身ともに健康で前向きに働けるよう、私の使命として取り組んでいく所存です。皆様のお力添えよろしくお願い致します。



さいわい福祉センター 所長 河野 直樹

この度、東久留米市立さいわい福祉センターの所長を務めさせていただくことになりました。私が本法人に入職し20余年になりますが、初めて着任したのがこのさいわい福祉センターでした。その間、異動に伴い3つの事業所を経験させていただき、再びご縁があり戻ってくることになりました。

さいわい福祉センターは、平成8年の開設以来東久留米市より当法人に事業委託され25年目を迎えることになりました。東久留米市独自のサービスとして開設当時は先駆的であった日中一時支援や都型ショートステイなど障害のある方やその家族などのニーズに沿って発展してきた歴史があり、その後も在宅支援、通所系サービスや就労支援室、特定相談支援など17事業にまで拡大し東久留米市の福祉拠点としての役割を担ってきたと思います。地域に必要とされるセンターとして今まで培ってきた信頼関係を損なわないよう責任の重さを感じますが、これからも「センターがあって良かった」と地域の方に言っていただけるような施設運営を職員と共に考え努めていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。



みなと保育園 園長 野田 泉子

この4月より、みなと保育園の園長を勤めさせて頂くことになりました。責任の重さを十分に感じ、不安なこともあります。自分が長年積み重ねてきた保育園での経験を

を活かし、強味としていきたいと思っております。

みなと保育園は閑静な住宅街にあり、上皇邸がすぐ近くにあり。緑も多く都会の中にもありながらも環境の良い場所です。今はすぐ目の前にタワマンションが建設中です。大きなクレーンが高い建物の上で毎日作業しています。今、港区も保育園が増え我が園でも園児が未充足の状態です。しかし、2～3年後には、閑静な住宅街ではなく子どもが増え賑やかになるのかも知れません。今は「子どもの声や音などに気を使う環境の中で子ども達には伸び伸びと過ごして欲しい」「自分を思い切り発散することが出来る保育園でありたい」と常に考えます。みなと保育園でできる事を職員の皆さんと一緒に考えいつ迄も選ばれる保育園にになれるようにと思っております。今まで自分がやりたいと思った事を実行させて頂いたように、今度は私も広い心で「保育は楽しい」と感じて貰える様に行きたいと思っております。「職員が居なければ園長は成り立たない」という先輩の言葉を忘れずに励んでいきたいです。更なるご指導を、よろしくお願い致します。

## コロナ禍における影響と その中でホッとしたこと

特別養護老人ホーム **フジホーム**

副園長 **山田 卓磨**

2020年突如として世界を襲った新型コロナウイルス。この脅威に対して、どのように乗り越えていくのか、模索と実践の日々を送っています。

コロナ禍での自粛生活が長期化し、不要不急の外出をしなくなった習慣が、今迄の当たり前だった生活を一変させました。その結果、職員だけではなく、施設ご利用者にも多大な影響が生じ、苛立ちを隠し切れない方も目立ってきました。

その理由の一つとして、感染症状況を鑑みた面会制限です。タブレットを活用したオンライン面会を継続しているとはいえ、家族に直接会えない不安と悲しみが積み重なり、苛立ちに繋がっていると容易に想像ができます。

私たち職員も施設内感染の媒介者になるかもしれないという恐怖心と、まるで先の見えない暗闇を歩んでいるかのような状況が、いつまで続くのかという不安を感じています。

その様な中でも、職員間で知恵を結集させ、ご

利用者へ快適な生活を送れるよう、日々の生活支援はもちろんのこと、季節行事やフロアイベントを企画し、ご利用者の笑顔を引き出そうと励んでいます。

そして、新型コロナウイルスワクチン接種が当施設内でも開始されました。

このワクチン接種が今後どのような影響をもたらされるか分かりませんが、ようやく一筋の光が見え、多少なりともホッとしています。過信はできません。

今後も職員一丸となって、未曾有の脅威に立ち向かい、より一層の感染症対策に努めてまいります。



## サンライズ万世

少年指導員 **武田 佑太**

サンライズ万世は新型コロナウイルスの影響で2020年3月から5月まで施設内行事が全面的に中止となっていました。

コロナ禍でも行事を再開するためにはどうしたらよいか職員で何度も検討しました。同じ内容の行事を2回に分けて実施し、少人数でおこなえる環境を作る事で6月の七夕飾り工作から行事を再開しました。子どもたちが夏休みになると例年であればプールや宿泊キャンプなど多くの行事をしていましたが、代替として昭和郷保育園、昭和郷第二保育園の園庭をお借りしての水遊びや花火大会・観賞会といった新しい取り組みも行いました。令和3年度1発目の学童行事は母の日のプレゼント作りとしてマグネット工作をしました。子どもたちがお母さんのために一所懸命作品を作っている姿を見ることが出来て、まだまだ少しづつではありますが行事をすることが出来て良かったと思います。

日々の生活の中では下校時の検温、手洗い・うがい、共有スペース開放中の窓の換気、マスクの着用、限られたおもちゃで遊ぶなど制限が多い中

でも子どもたちは笑顔いっぱい遊んでいます。学習会は子どもたちの宿題が多くなったためか参加人数が例年より大幅に増えました。そのため密にならないように机、座席の配置を決めるなど工夫して取り組みました。この1年間で子どもたちが学習会中に宿題を終わらせる習慣が身についたのは良かったと思います。まだまだ終わりが見えない状況ですが、職員一丸となり笑顔を絶やさずこれからも仕事をしていきたいと思っています。



## 立川福祉作業所

副所長 木村 泉

人の心を大きく揺さぶるニュースは、瞬く間に日本の中心である東京を飲みこみました。そのスピードと深刻な影響力、そして恐怖は、子どものころ漫画や映画で見たフィクションの世界感のようであり、一気に社会全体が暗い雰囲気のみ込まれ、新型コロナウイルスは全世界に広がりました。

当時、作業所も急激な変化が重なり、毎日が不安という立ちの中で過ぎていったように思い起こされます。

多くの不安を安心に変えるために取り組んだのは、解りやすいルール作りでした。

具体的には、全員の健康管理・丁寧な手洗い・外と館内を分けた着替え・マスク着用の徹底・毎日の館内消毒・密を避けるためのタイムテーブルの変更・施設内レイアウト（基本的に一方通行を原則として往来を避ける）・食事は黙食の徹底などでした。

一人一人に付き添い、繰り返し繰り返しルールの徹底を行い、職員、利用者にとっては大きな負担であったと思いますが、今では当たり前の光景になっています。

「ルールをしっかり守る事」は簡単なことではないと痛感しています。

現在の立川福祉作業所には笑顔があります。毎日何かしら珍事件が起き、職員は奔走し、その様子に一喜一憂しながらみんなの笑いが起きます。人が集い、同じ時間を共有することで笑い声があちこちで聞こえます。マスクを外すことはできないけれど、暗いニュースを吹き飛ばす原動力になっています。

本当の安心はもう少し先になりそうですが、みんなの笑顔はおそらく全員の免疫力を上げていると確信しています。



## むさしの保育園方南分園

副園長 鈴木 円香

むさしの保育園方南分園は0～2歳児までの保育園です。そのため、感染症対策は職員が対応しています。職員は全員、通勤着から着替えをし、電車通勤者はマスクを交換。外からウィルスを持ち込まないように心がけています。

思い起こすと昨年度は全てに対して、模索の1年でした。1回目の緊急事態宣言以降玄関での受け入れ、保護者の入室を完全にお断りしました。保護者は不安しかなかったでしょう。その気持ちに寄り添うべく、見えない保育をどのように伝えていくか、職員で何度も話し合いました。そんな中、行った運動会。例年むさしの保育園と合同で小学校の校庭で行なっていましたが、昨年度はテラスにてクラスごと保育士と園児のみの運動会を行い、その様子をDVDに編集し各家庭に配布しました。全員が“今”のありのままの姿をお見せすることができました。

以降、職員はやるべき消毒作業を徹底し、利用する保護者に協力をお願いして、徐々に通常業務に戻せるよう取り組んでいます。保育参観は保護

者との交流を避け、保育室に目張りをし、子ども達からは見えない状態で行いました。集団生活での子どもの様子、成長している過程を保護者と共有しました。

With コロナ2年目。まだまだ気を緩めることなく、昨年度取り組んだ事を活かしながら、保護者と共に未来ある子ども達の成長を、“今”を大切にこれからも育んでいきたいです。



2020年度の日本は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により年間の感染者は46万8,296人に上り、その影響は広範かつ分野横断的に多大なものとなりました。従来の社会活動が極端に制限される中で、社会のデジタル化が加速し、キャッシュレス決済の拡大やテレワークの普及、オンライン教育の広がりなど社会のシステムを大きく変容させました。一方で、こうした急激な変化は新たな日常とともに人々の意識にも大きな影響を与えました。本会においても感染予防に細心の注意を払うとともに、持続可能な事業運営に取り組んでまいりました。

### 第2期中長期計画を策定しました

**組** 織運営についても、リモート会議体制を整備するとともに、法人内に整備されたSNSツールを活用して、緊急時や災害時の情報共有を図るなど組織的な事業の継続に努め、組織マネジメントの基盤強化をおこなってまいりました。更には、事業の安定・発展のための羅針盤として第2期中長期計画を策定しました。

### コロナ禍特別手当を支給しました

**経** 営状況については、コロナ禍における事業の見直しや現場職員への特別手当の支給、感染症対策経費の増額などのため予算の再編をおこないません。一方で、実収入に見合った支出の徹底や利用率の維持・向上に向けた取組み、コロナ関連のかかり増し経費補助金の受入れなどにより、法人全体の2020年度の当期活動増減差額は2億3,795万円となり黒字幅は対前年度比で2億2,936万円の増額となりました。特に昭島病院については、地域のニーズに即した紹介患者の受け入れなどにより年間病床稼働率83.3%を達成し、対前年度比で9,691万円の収支改善につながりました。今後とも地域医療との連携強化はもとより、訪問診療や訪問看護など地域の医療需要への対応に積極的に取組み、引き続き全力で収支改善に取り組んでまいります。

### プレミールコート南青山が完成しました

**財** 務基盤の強化については、業務委託の見直しをはじめ、事務用品や日用品などの物品調達の一元化に取り組むコストの削減を図り

ました。更には、賃貸マンション「プレミールコート南青山」が完成し、サブリースによる安全で収益性の高い集合住宅賃貸事業を開始するとともに、低金利時代における資産運用収入の確保に努めました。

### 新型コロナウイルス感染症対応 Vol.1～16を発売しました

**施** 設運営については、「新型コロナウイルス感染症対応について Vol.1～16」を発売して感染防止対策の徹底を図り、新しい生活様式を実践してまいりました。施設行事のあり方の見直しやリモート面会の導入、PCR検査の実施など最大限の取組みを引き続きおこなってまいります。一方で給食業務直営化や原町デイサービスセンターの閉鎖、ひかり苑居宅介護支援事業所の休止など計画的な事業の見直しに努めました。

### 地域への取組みを行いました

**地** 域への取組みについては、活動そのものが限定的とはなりましたが、感染防止に努めながら、生活困窮家庭の子どもの学習支援や法人独自の低所得者に対する利用料の負担軽減、地域見守り配食などの社会貢献活動をおこなってまいりました。特に昭島病院においては、都内の新型コロナウイルス感染症患者を受入れるなど地域医療機関としての使命を果たしてまいりました。

### 新規53名を採用しました

**人** 材確保については、年度当初より新規学卒者などの採用を進め新規に53名を採用することが出来ました。人材の育成につきましては、リモートによる法人本部主催の階層別研修を実施したほか、各支援系グループにおいても、分野別の専門研修などを実施しました。さらに人材の確保・定着に向けた取組みとして、選択制企業型確定拠出年金制度導入に向けた整備や職員がやりがいを持てる魅力ある給与制度の設計に着手いたしました。

施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。



## 退任挨拶



前施設部長 根本 昌廣

平成28年4月1日に「特別養護老人ホームゆたか苑」副園長として着任し、2か月後に施設長を拝命しました。施設長として1年10か月は、施設運営における事業の稼働率や利用者・職員の健康管理状態など、毎日が緊張の連続だったと思います。少数精鋭の職員体制の運営でしたが職員間の連携、職種を超えて協力し合う土壌が出来ていたことと職員の仕事に対する意識の高さに助けられました。法人本部事務局施設部での3年間は、法人経営に携わり、施設の運営管理や内検、感染症対策などを担当しましたが、思い出深いのは、新型コロナウイルス対策において都内の感染者が増加する中、法人本部事務局と施設や事業所が一丸となって、迅速に行動し徹底した感染症予防対策を行った結果、職員や利用者そして家族に感染拡大せずに感染者も少数に抑えてきたことです。まだ、収束はしていませんが頑張っている皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。改めて法人本部機能と各施設の感染症対策の質の高さを痛感致しました。

最後になりますが、在勤中の5年間は短い期間ではありましたが、様々な課題と向き合い試行錯誤の連続でした。しかし、多くの人に出会い、励まされ、支えられ充実していたと思います。無事に職責を全うすることが出来たのも理事長はじめ常務理事、各事務局部長や本部事務局職員・施設で働く職員の皆様にご支援ご指導いただいたお陰であると感謝しております。本当にありがとうございました。



ひかり苑 前園長 南山 徳英

令和3年3月31日をもって、再雇用満了を迎え、東京都同胞援護会を無事退職することができました。昭和55年に一般の会社から、二十代半ばに福祉の知識も経験も全くなく不安だらけの転職でした。

勤続41年間の振り返ってみると、沢山の出会い、沢山の経験をして、沢山のことを学ぶことが出来ました。学んだことで一貫して意識してきたことは、「楽しく」ということです。「楽しいからこそ働ける」「楽しいからこそ続けられる」「楽しいからこそ目標が持てる」これが私の人生訓でした。

最初に配属になったのが保育園でした。その後障害者施設、法人本部、特養ホーム、救護施設、母子生活支援施設等の10か所の職場を経験しました。

公私ともに今思い浮かぶのは「あつという間」「全力投球」「苦あれば楽あり」「何とかなるさ」とポジティブに前向きに考える性格が、今日まで勤務できた要因であると自分なりの解釈をしています。

同援は豊富な知識と行動力を持った人達の集まりです。「将来に夢と希望」を持てる施設運営が展開されることをお祈りいたします。

最後に、41年間働いてこれたのは一緒に時間を過ごし、楽しいことも辛いことも分かち合ってきた仲間がいたからです。歴代の理事長始め法人本部の皆さんや支えていただいた施設長始め諸先輩方、同僚、後輩職員の皆さんのおかげです。心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

東京都同胞援護会の益々のご発展をお祈りいたします。



同援さくら保育園 前園長 林 美枝

この度、40年余り勤務した東京都同胞援護会を退職致しました。主に「保育」を通して多くの方と関わり「豊かな経験」をさせていただきました。

保母として採用された昭和55年頃の保育園は、保育時間が9時間程度、園児の送迎や行事参加は女性を中心でした。その後、家庭環境や就労状況の変化に応じて、乳児保育や延長保育等積極的に受け入れてきました。様々な保育ニーズに向き合いながら「子ども達の為にどのような援助が必要なのか」と職員間で真剣に議論し取り組んだことを思い出します。

今では待機児童解消や保育の質の向上の為に、子育て中の職員や男性保育士の活躍も期待されています。働き方改革や多様性への対応が必須であり、保育園の変遷は続きます。

私自身も事務員、副園長、園長という立場で施設運営に携わり、沢山の経験を致しました。当法人の「人を大切にする」という方針と、関わる方々からの「暖かい言葉」に支えていただき感謝しています。

最後になりましたが、元気な子ども達とご家族の皆様、ご指導いただいた先輩方、共に働いて下さった職員の皆様へ心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。



## 理事・監事・評議員

理事（令和3年6月25日付）

退任	就任	
岡本勝巳	荒井隆夫	（任期：令和3年6月25日から令和5年6月）

監事（令和3年6月25日付）

退任	就任	
岩井令雄	根本昌廣	（任期：令和3年6月25日から令和5年6月）

評議員（令和3年6月25日付）

退任	就任	
古屋正義	吉村晴美	（任期：令和3年6月25日から令和7年6月）
小山寿	細谷訓之	
田中幸子	七島晴仁	

## 決算報告書

### 貸借対照表

2021年3月31日現在

（単位：千円）

資産の部		負債の部	
流動資産	4,259,967	流動負債	1,340,972
固定資産	17,053,057	固定負債	1,619,096
		負債合計	2,960,068
		<b>純資産の部</b>	
		基本金	983,755
		国庫補助金等特別積立金	4,206,806
		その他の積立金	5,596,543
		次期繰越活動収支差額	7,565,852
		純資産合計	18,352,956
資産合計	21,313,024	負債・純資産合計	21,313,024



## 事業活動計算書

(自)2020年4月1日 (至)2021年3月31日

(単位:千円)

<b>サービス活動増減の部</b>	
サービス活動収益計 (1)	12,000,690
サービス活動費用計 (2)	11,847,751
サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	152,939
<b>サービス活動外増減の部</b>	
サービス活動外収益計 (4)	117,696
サービス活動外費用計 (5)	20,705
サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	96,991
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	249,930
<b>特別増減の部</b>	
特別収益計 (8)	51,393
特別費用計 (9)	63,371
特別増減差額 (10) = (8) - (9)	△ 11,978
税引前当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	237,952
法人税、住民税及び事業税 (12)	0
当期活動増減差額 (13) = (11) - (12)	237,952
<b>繰越活動増減差額の部</b>	
前期繰越活動増減差額 (14)	7,559,175
当期末繰越活動増減差額 (15) = (13) + (14)	7,797,127
基本金取崩額 (16)	0
その他の積立金取崩額 (17)	46,399
その他の積立金積立額 (18)	277,674
次期繰越活動増減差額 (19) = (15) + (16) + (17) - (18)	7,565,852

## 資金収支計算書

(自)2020年4月1日 (至)2021年3月31日

(単位:千円)

<b>事業活動による収支</b>	
事業活動収入計 (1)	12,120,075
事業活動支出計 (2)	11,314,236
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)	805,839
<b>施設整備等による収支</b>	
施設整備等収入計 (4)	287,527
施設整備等支出計 (5)	588,747
施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)	△ 301,220
<b>その他の活動による収支</b>	
その他の活動収入計 (7)	150,093
その他の活動支出計 (8)	330,500
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	△ 180,407
当期資金収支差額合計 (10) = (3) + (6) + (9)	324,212
前期末支払資金残高 (11)	3,049,757
当期末支払資金残高 (10) + (11)	3,373,969

## ご支援ありがとうございました (敬称略順不同)

### ご寄付

◇原みさ子◇芹川佐智子◇小山清子◇雪田節子◇マツダドライサービス◇(公財)生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 東京協会◇多摩管友会 会長 森崎敏夫◇池田康子

### 後援会

伊藤彰浩◇細谷寛子◇中村貞徳◇幡野信子◇宮奈多摩江◇鮫島恭江◇折居千恵子◇大橋政照◇宮澤民雄◇高仲智子◇福家謙介◇青木薫◇川井文子◇(株)シイ. エイチ. エス 代表取締役 三浦壤二◇国立厨房サービス(株) 代表取締役 藤原章太郎◇(有)海老山◇ネオ・ハルト(株)◇浦野工業(株) 代表取締役 浦野静夫◇昭和の森エリアサービス(株)スマイルケア昭和の森◇合資会社松野薬局 会長 松野榮仁◇雪印メグミルク下坪牛乳販売店 下坪唱三◇(株)フソー 代表取締役 山田政宗◇風間造園(株) 代表取締役

風間脩一◇(有)まゆみ書房◇ヘアパルおかもと 岡本廣◇(有)横手モータース 代表取締役 横手利男◇(株)昭和造園◇東京冷機工業(株)◇(株)豊明◇(株)ハーティーマネジメント 代表取締役 阿部博一◇(株)増田コーポレーション◇中村屋魚店◇(有)原島組 代表取締役 原島和敏◇(有)リハビリサービス◇(有)ラッククリーンサービス 代表取締役 佐々木憲寅◇長崎三丁目町会 会長 足立憲昭◇創洋紙商事(株) 代表取締役 中屋守敏◇唐沢電機(株) 代表取締役 小林利美◇昭島サンセルフ 高野裕志◇(株)コスモス医工 代表取締役 小林寿男◇(株)サン・ホワイト 代表取締役 三宅真◇(株)キタジマ◇(株)ワンダー東京◇(有)いとう教材社 代表取締役 伊藤浄堯◇相田土居設計 代表取締役 土居志朗◇(株)ミートショップの鈴政◇アーキベルクー級建築士事務所 大澤茂◇(株)金井商店 代表取締役 金井務

## 資格取得のご紹介

次の方が資格取得しました。  
日頃の業務に活かし、ご活躍を期待します。

### ■ 社会福祉士

さやま園  
生活支援員 山下 正

### ■ 介護福祉士

ニューフジホーム  
介護職員 文 赫基

さやま園  
生活支援員 上田麻理奈  
生活支援員 戸口 沙織  
生活支援員 柳川 陽介

さいわい福祉センター  
生活支援員 長島 侑吾



保育園の玄関先には筒状の大きな水槽があります。そこには、大きさや形が違う、色とりどりの魚たちが優雅に泳いでいます。朝夕、子ども達や保護者の皆さんが、魚を愛でて可愛がってください、私達職員にとっても癒しの存在になっています。ある日のこと、水槽の中を食い入るように見つめている3歳の年少さんがいたので、「どうしたの?」と、声を掛けると、「可哀そう。」と言って、一匹の魚を指さしました。可哀そうと言われた魚は、元々水面下でじっとして動かない性質を持っていますので、具合が悪いわけではありませんが、そのお子さんにしたら「動かない=具合が悪い」と受け止めたのでしょうか。ガラス越しで、そっと小さな手を当てているその様子は、母親が自分の子どもを心配する姿と同じです。掌の温かさは、人の傷を癒すとも言われています。幼いながらも、そんな仕草をする子どもさんに私の心も温かく、癒されました。

昭和郷第二保育園 清水 記

発行者 飯山 幸雄  
社会福祉法人 財団法人 東京都同胞援護会  
東京都新宿区原町 3-8  
電話 03(3341)7161 <https://www.doen.jp>

印刷所 東京都同胞援護会事業局  
東京都墨田区両国 4-1-8

令和3年7月15日 発行

